

簡易架線集材現地検討会の開催について

岩手県宮古市江繋字早池峰山国有林180林班

令和6年9月5日、午前中に開催された採材現地検討会に引き続き、当署生産事業請負者である有限会社道又林業に全面的にご協力いただき、専務取締役の野^の邑^{むら}真路氏を講師に迎え、岩手県内各地の林業事業体や東北森林管理局・森林管理署等職員合わせて99名にご参加いただき簡易架線集材現地検討会を開催しました。

この検討会は、タワーヤーダを使用した簡易架線集材作業について林地保全に配慮した森林施業としての有効性を確認し、急傾斜地の多い地域における事業体への簡易架線集材作業システム導入の推進を図ることを目的として開催したものです。

開催に当たり、当署署長より「当署管内は急傾斜地や岩石地が多く、架線集材のメリットを受けやすい地域であり、実際に簡易架線集材をご覧いただき、皆様からいただいたご意見を一つ一つ解決しながら、今後の簡易架線の可能性を見つけ、この地域から簡易架線について発信していきたい。」との挨拶に続き、簡易架線集材の開設・作業実演に移りました。



有限会社道又林業では、日本向けに開発されたオーストリア製の自走式クローラー型タワーヤーダ「KMR4000」及び高性能搬器「リフトライナー」等を導入し、昨年度より簡易架線集材の実施に取り組んでいます。講師の野邑氏より、タワーヤーダ導入に至る経緯、機種を選定理由、機械の特徴や各部の動き等について丁寧に解説していただきました。

次は会場を林内に移し、実際に一連の集材作業を、実践的な作業時の注意事項など解説を交えながら実演していただきました。





作業で使用している搬器は力があり、ものの数分で伐採地点から伐採木を引き上げ、次々と集材作業が行われていく様子を目の当たりにし、参加者は急傾斜地における架線集材の有効性を肌で感じられたと思います。

作業実演・解説と並行して行った質疑応答においては、作業体制や中間サポートを設置する理由、天候による作業への影響、効率の良いスパン長、搬器のオートチョーカーが外れることがないのかなど質問が相次ぎ、関心の高さが伺えました。



最後に、東北森林管理局次長より「林地保全の面においても簡易架線集材の有効性が注目されており、東北森林管理局としても今後応援していきたい。」との講評をいただき検討会を終了しました。

簡易架線集材現地検討会の開催にあたり、有限会社道又林業には会場設定や作業調整など多くの時間を割いてご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

また、お忙しい中、遠路ご足労いただきました参加者の皆様大変ありがとうございました。

当署では、今後も急傾斜地等で有効な作業システムとして、林業事業体への簡易架線集材作業システム導入の推進に取り組んでいきます。

